

[修士]

修士学位論文内容要旨
Abstract

専攻 Major	海洋環境保全学専攻	氏名 Name	蔦木 開
論文題目 Title	潜水漁業者を対象とした操業実態把握の試み及び健康調査		

本研究では、潜水漁業者における操業の実態を把握すること、及び潜水漁業者を対象とした健康に関する質問紙調査を実施することにより、潜水漁業者の潜水障害やそのリスクを把握し、より安全な操業を提案するための資料を収集することを目的とした。

潜水漁業者の操業実態を把握するために、千葉県白浜、三重県国崎、石川県舳倉島の3つの異なる地域で、潜水漁業者(8名、計10回の潜水)を対象に調査を実施した。調査においては、新たに開発したデータロガー、ウェアラブルカメラ、腕時計型のダイブコンピュータ等を操業中に装着してもらい、操業時間、潜水回数、水深、潜水時間および水面休憩時間、操業範囲についてのデータを収集するとともに漁業者の視点からの水中映像資料を収集した。また、潜水漁業者の健康状態を把握するために、三重県国崎にて45名の海女を対象に質問紙調査を実施した。

操業中の諸データを分析したところ、以下について示すことができた。1)操業時間には地域差があること、2)潜水回数についてみると地域差があり、同地域内のフナド(船からのアシストを伴って潜水する潜水漁業者)とカチド(船からのアシストを伴わない潜水漁業者)を比較するとカチドの方が多く潜水していたこと、3)水深についても地域差があり、同地域内のフナドとカチドを比べるとフナドの方が深く潜水していたこと、4)潜水時間と水面休憩時間との比では舳倉島カチド(1:0.52)、舳倉島フナド(1:0.73)、国崎フナド(1:0.73)において水面休憩時間が短かったこと、5)千葉県白浜と三重県国崎の対象者における操業範囲をGPSデータから得て地図上にプロットしたところ、カチドはフナドに比べ広範囲にわたって潜水していたこと、6)ウェアラブルカメラを装着することにより、操業者の視線から磯根の様子やアワビ等の生息場所などについてのデータを収集することができた。

潜水漁業者を対象とした健康状態に関する調査から、操業中の症状については「けいれん(62%)」、「吐き気(53%)」、「めまい(49%)」、「しびれ(27%)」、の順に多く、普段の症状では「腰痛(64%)」、「膝痛(40%)」、「高血圧(31%)」、「難聴(27%)」が多いことが把握できた。

潜水漁業者が経験的に操業を行っていることで、潜水障害や健康被害のリスクを高めている可能性があることが示唆された。今後も操業中のデータ収集と健康状態に関する調査を継続することにより、地域、年齢、漁獲物の種類、季節等の相違といった要因から、潜水漁業者の操業に関する特性を考察することが可能になると考えられる。また、身体に負担の少ない新たな器材や潜水方法等を潜水漁業者に提案することで、安全で健康的な操業に貢献できるものと考えられる。